

**❖ 第1章 調査の概要 ❖**



# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、人権についての区民の意識を把握し、今後の人権施策を推進するための基礎資料とすることを目的として実施しました。

## 2 調査の方法

- (1) 調査地域：目黒区全域
- (2) 調査対象：区内在住の18歳以上の区民3,000人（男女各1,500人。外国人住民を含む）
- (3) 抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配布・郵送またはインターネットでの回収
- (5) 調査期間：平成30年10月1日～10月22日

## 3 調査内容

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| 1 人権問題全般について     | 7 外国人の人権について             |
| 2 男女平等に関する意識について | 8 エイズと人権について             |
| 3 子どもの人権について     | 9 インターネットに関する人権上の問題点について |
| 4 高齢者の人権について     | 10 性的マイノリティに関する人権について    |
| 5 障害者の人権について     | 11 人権尊重社会の実現について         |
| 6 部落差別（同和問題）について |                          |

## 4 回収結果

配布数 (票) (A)	回収数 (票) (B)	白票・無効票 (票) (C)	有効回収数 (票) (D=B-C)	回収率 (%) (B/A)	有効回収率 (%) (D/A)
3,000	1,305	2	1,303	43.5	43.4

## 5 設問項目

テーマ	番号	設問内容	テーマ	番号	設問内容	
人権問題全般について	1	人権への意識	部落差別（同和問題）について	26	親しい隣近所の人「被差別部落（同和地区）」出身であるとわかった場合の対応	
	2	周囲の人とともに、差別的な行動や発言をした経験		27	身内の結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応	
	3	不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験		28	子どもの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応	
	4	自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと		29	採用試験の際に行われる身元調査への意識	
	4-1	最もひどい人権侵害のケース		30	勤めている会社で身元調査をしている場合の意識	
	4-2	最もひどい人権侵害への対応		31	部落差別（同和問題）解決のために今後実施すべきこと	
	5	現在の社会に存在する人権侵害		外国人の人権について	32	外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと
	6	差別解消に関する法律の認知状況			33	外国人（自分とは異なる国籍・民族）が隣に引っ越してきた場合の対応
男女平等の意識について	7	「性別役割分担」の意識	34		外国人の人権を守るために必要なこと	
	8	女性が職業をもつことについての意識	エイズと人権について	35	HIV感染者・AIDS患者の人権問題で特にひどいと思うこと	
	9	男女平等の認識		36	同僚がHIV感染者・AIDS患者とわかった場合の対応	
	10	セクシュアル・ハラスメントを受けた経験	子どもの人権について	37	「HIV感染者・AIDS患者を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考え方への賛否	
	10-1	セクシュアル・ハラスメントを受けた場所		38	HIV感染者・AIDS患者の人権を守るために、行政が実施すべきこと	
	11	女性の人権が守られていないと思うこと		インターネットに関する人権について	39	インターネットで人権上問題があると思うこと
12	女性の人権を守るために実施すべきこと	40	インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと			
子どもの人権について	13	区制定条例の認知	性的マイノリティに関する人権について	41	性的マイノリティを理由とする人権問題で特にひどいと思うこと	
	14	子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと		42	性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと	
	15	地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応		人権尊重社会の現について	43	10年前に比べた区民の人権意識の状況
16	「子どもを一人の人間として尊重する社会が望ましい」という考え方への賛否	44	人権を尊重する社会を実現するために必要な取組			
17	子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと	高齢者の人権について	フェイスシート	F1	性別	
権について	18			高齢者の人権が守られていないと思うこと	F2	年齢
	19			「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否	F3	職業
	20	高齢者の人権を守るために実施すべきこと	F4	結婚の有無		
権について	21	障害者の人権が守られていないと思うこと	F4-1	夫婦の就労状況		
	22	共生社会の賛否				
	23	障害者の人権を守るために実施すべきこと				
部落差別（同和問題）について	24	部落差別（同和問題）の認知状況				
	25	被差別部落（同和地区）の認知状況				
	25-1	被差別部落（同和地区）の認知時期				
	25-2	被差別部落（同和地区）の認知機会				
	25-3	「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象				

## 6 調査結果の見方

- ・調査結果の数値は、原則として回答率（％）で表記しています。
- ・表では、原則として上段は実数、下段は割合（％）（小数第一位まで）として表記してあります。表中に「－」と表示してあるのは、回答者がいなかった場合です。
- ・回答率（％）は、その設問の回答者数を基数として算出しています。そのため、複数回答の場合、選択肢ごとの割合を合計すると 100.0％を超えることがあります。
- ・回答率（％）は、小数第二位を四捨五入により端数処理しています。そのため、属性ごとの回答比率の合計が、合計欄の数値と一致しないことがあります。
- ・アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、図・表の中では要約して短く表現している場合があります。
- ・各設問において、性別や年代など基本属性に「無回答」があるため、全体の数値と各項目の数値の合計が一致しないことがあります。
- ・表中で特色が現れており、注目した部分（割合（％））については、網かけをつけています。
- ・回答者数・クロス集計の項目の母数が 50 人未満のものについては、原則として分析対象から外しています。ただし、その場合でも調査結果には参考値として掲載しています。

## 7 他調査との比較について

この報告書では、本文中で以下の調査結果との比較を行っています。なお、今回の調査と以下の調査では設問文や選択肢の一部が異なっている場合があること、調査手法が異なっていることから、調査結果の比較に当たっては留意が必要です。

<b>(1) 目黒区「人権に関する意識調査」【平成 25 年度（前回）調査】</b>	
対 象	区内在住の 18 歳以上の男女 2,000 人
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査期間	平成 25 年 9 月 1 日～9 月 20 日
回収状況	回収率 43.0%

  

<b>(2) 目黒区「人権に関する意識調査」【平成 18 年度（前々回）調査】</b>	
対 象	区内在住の 18 歳以上の男女 2,500 人
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査期間	平成 18 年 11 月 16 日～12 月 5 日
回収状況	回収率 49.5%

## 8 標本誤差

この調査は、18歳以上の区民から3,000人を抽出して実施した「標本調査」です。なお、18歳以上の区民全員を対象とした調査を「全数調査」といいます。

「標本調査」では、得られた結果から18歳以上の区民全体の値を推定しますが、この際に生じる「標本調査の結果」と「全数調査の結果」との差を標本誤差といいます。

標本誤差は、以下の数式によって算出されます。

### 〈標本誤差算出式〉

標本誤差 =	$\pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$	N = 母集団の数 n = 回答数 p = 回答の比率
--------	---	-----------------------------------

この調査の標本誤差は、おおむね下表のとおりです。

		回答率 (p)				
		10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
サ ン プ ル の 大 き さ ( n )	回収数 (1,303)	±1.6%	±2.2%	±2.5%	±2.7%	±2.7%
	女性 ( 729)	±2.2%	±2.9%	±3.3%	±3.6%	±3.6%
	男性 ( 564)	±2.5%	±3.3%	±3.8%	±4.0%	±4.1%
	1,000	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
	500	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
	300	±3.4%	±4.5%	±5.2%	±5.5%	±5.7%
	200	±4.2%	±5.5%	±6.4%	±6.8%	±6.9%
	100	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%
	50	±8.3%	±11.1%	±12.7%	±13.6%	±13.9%

### ※表の見方の例

問7「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、あなたはどのように思いますか」の設問に、「どちらかといえば反対」と回答した人が全体 (n=1,303) の20%であったとします。

この場合、標本誤差は±2.2%であるため、目黒区の18歳以上の人で「どちらかといえば反対」と考えている人の割合が17.8%~22.2%の間にあることが、95%の信頼度でいえることとなります。